

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道德教育と同和教育⑩ ～今日のみんなすごく輝いていたと思う～

## 「わがこと」として語り合う苦しさおよび喜び

予定時間を10分以上超える中、すぎるようなまなざしで、挙手するその生徒のまなざしに押されるように、私は、その生徒を指名しました。そのR・Hの言葉に、仲間は、すかさず「ひとごと」ではなく「わがこと」として、言葉を返していきました。



K・Kの語り「今日のみんなの熱い語りを聴いて、また燃えられるようになるかなと思う」

みんな信頼しているっていっぱい言ってくれたけど、私はこの前の同和問題学習で発表できなかつたりして、みんなを裏切ろうとしていました。すごくそれから悩みました。だけど、そんな私でも、今日のみんなの熱い語りを聴いて、みんながいてくれることによって、これからまた燃えられるようになるかなと思いました。

S・Nの語り「発表してくれる友だちがいるから、今頑張れていると思う」

私たちもやっぱりK・Kさんのような人がいて友だちがいて、K・Kさんのように発表してくれる友だちがいるから、これからも頑張ろうと思うし、今頑張れているんだと思います。



Y・Iの語り「多くの人々と『かけ』をつくり合って、差別をなくしていかなければならない」

この資料を読んでやっぱり最初に思ったことは、経済的には豊かになってきた日本だけど、どんどん人間の心というのは貧しくなりつつあるんじゃないかなあと思いました。

この正太郎のように社会の流れに流されて変わっていく人ってたくさんいると思うんです。けど私たち3年B組は絶対に変わらないまま、今の絆を大切にしたいなあと思いました。

それでこの勉強をしていて英夫という人は、部落問題を考えていく上でも、人間の悲しみとか部落差別とかの悲しみがすごくわかる人だと思います。

だから私たちも英夫のようにずっと仲間を信頼して生きたいし、そして今の3年B組のみんなだけでなく、たくさんの人と『かけ』をつくり合って、この絶対おかしい差別をなくしていかなければならないと思いました。

それに今日みんなすごく輝いていたと思います。



この特別公開授業を締め括ったのは、時間延長を強く訴えた委員長のY・Iでした。私は、このY・Iの発言の後、黒板に大きく「3年B組の絆」と書いて授業を終えました。

授業終了後の参観者からの拍手、体育館から退場するときに生徒に送られた大きな拍手は、生涯忘れ得ぬ体験となっています。